

大学図書館職員長期研修 第50回を迎えて

1969 (昭和44) 年度に文部省と図書館短期大学との共催で始められた大学図書館職員長期研修は、この2018 (平成30) 年度で第50回を数えます。

長研の 思い出

大学図書館職員長期研修は、親しみをこめて「長研（ちょうけん）」と呼ばれています。長研を受講した皆様、運営に携わった皆様から、思い出をお寄せいただきました。

1969 (昭和44) 年度受講生

元 東北大学附属図書館事務部長 平成3年度退官
矢野 光雄

日常業務を離れた三週間。受講者は国立大図書館の係長クラスだった。50年前の名簿の前に感慨一入である。研修では、図書館業務の在り方について多くの知見を得た。何よりも受講者全員29名の人的ネットができたのが大きかった。受講後、在職中数回の同窓会を持つ。長研一期生の結束は固かった。



1998 (平成10) 年度受講生

2006 (平成18) ～ 2008 (平成20) 年度運営

新潟大学 学術情報基盤機構 学術情報部長
岡部 幸祐

私が長期研修に携わったのは平成18年度から3年間。毎年どうすれば受講生にとって充実した研修となるかを考えましたが、当時の部長からは何度もダメ出しされたのを覚えています。苦労もありましたが、様々なところで受講生の方々に会い「お世話になりました。」と言っただけが何よりの喜びであり良き思い出です。



1983 (昭和58) 年度受講生

1983 (昭和58) ～ 1991 (平成3) 、2013 (平成25) ～2014 (平成26) 年度運営

国際教養大学 特任教授・図書館長
加藤 信哉

図書館情報大学では、図書館情報課職員総出で長期研修の運営に取り組みました。3週間の研修期間のうち、東京地区で研修があった第2週に職員は一息つくことができました。長期研修が終わると旧盆を過ぎたので、文部省の担当係に研修が8月にかからないように、毎年要望していたことを覚えています。



2000 (平成12) 年度受講生

2015 (平成27) ～ 2016 (平成28) 年度運営

国立情報学研究所 学術基盤推進部次長
江川 和子

講義内容はほぼ全て忘れたのに、美術史の若桑みどり先生の「大学図書館に期待するもの」だけが印象に残っている。Webcatで全国の大学図書館の蔵書が見えるようになったことに触れて、女性学など大手の大学が買わない図書を、小さな大学が頑張って揃えているとの指摘。学問の多様性を考えるときに思い出す。



1999 (平成11) 年度受講生
1999 (平成11) ～ 2005 (平成18) 年度運営

筑波大学 学術情報部 情報企画課主幹
廣田 直美

運営期間が長いのは図情大勤務だった期間が全て入っているから。図情大では、一大行事として職員総出で運営をしていたことを懐かしく思い出します。当時は東京2週間がとにかく大変でした！日替わりで運営する職員のために荷物のパッキング方法まで画像マニュアル化されていたことをよく覚えています。

2007 (平成19) 年度受講生
2014 (平成26) ～ 2015 (平成27) 年度運営

九州大学附属図書館 利用支援課長
斎藤 未夏

自身が受講したときもさることながら、企画渉外係長として研修の企画や実施に携わったときのことが強く印象に残っています。濃密な2週間を終えた皆さんが、最終日、感謝の言葉をかけてくださったりとときの喜びと充実感！受講生として、担当者として、私を育ててくれた研修です。



2008 (平成20) 年度受講生
2016 (平成28) 年度～ 運営

筑波大学 学術情報部 情報企画課 企画渉外係長
峯岸 由美

受講で感じたのは、自分は「井の中の蛙」だ！ということ。全国のみんながいきいきとお仕事されている様子を知り、目が開かれ（ると同時に少し落ち込み）ました。当時は子供が小さく、夜の部に参加できなかったことが残念でした。そして今は運営側へ。毎回うんうんうなりながらカリキュラム作成をしています。

2009 (平成21) 年度受講生
2017 (平成29) 年度運営

東北大学附属図書館 情報サービス課長
三角 太郎

本当に愉しかったし、毎年の同期会も修学旅行のように楽しい。筑波大勤務で一番の思い出も長研。光栄にも事務局から講評者指名、遠慮なく！の指示のもとツッコミ役をつとめたが、ぼくらの時のU先生の域まではまだだ？その際に講義資料を一通り読んだが、本当に内容が濃い研修だとあらためて感じた。



2009 (平成21) 年度受講生

第41期受講生一同

サードプレイス、職場でも家庭でもなく、役割を求められない第三の場の大切さが講義で指摘されました。年1回の同期会がまさにサードプレイス、みな楽しみにして今年で9回、知床、長良川、秋芳洞、天草、高知、東京、大阪、山形、支笏湖洞爺湖。来年10回記念は筑波。長研のつながりを大切に感じてます。



2014 (平成26) 年度受講生

熊本大学附属図書館 雑誌担当係長
森下 和博

長研50回、おめでとうございます。

研修の際には大変お世話になりました。（昼も夜も）

第46回組ですが、台風接近のため1日早く研修が終了したのも今では良い思い出です。誠にありがとうございました！

2017 (平成29) 年度受講生

2010 (平成22) ～2014 (平成26) 年度運営

筑波大学 学術情報部 情報企画課 デジタルライブラリ係長
嶋田 晋

平成22年度から平成26年度まで合計5回担当しました。

平成23年度は東日本大震災の直後で、開催が危ぶまれましたが、おかげさまで無事開催できました。平成26年度は台風の影響で1日短縮と、思い返すと天災との戦いだったかもしれません。

その代わり受講生や講師の皆様、上司同僚には大変に恵まれました！

2015 (平成27) ～2017 (平成29) 年度運営

筑波大学 学術情報部 アカデミックサポート課 (体芸図書館)
石津 朋之

3年に亘って、運営に係らせて頂きました。

日本中からつくばに集った先輩職員の皆様、2週間の間、様々な場面で運営面までサポートいただきありがとうございました。色紙は今でも宝物です。

命の洗濯とばかりに理想を語り合った日々を忘れずに、今後もつくばにお越しの際は是非お立ち寄りください！



開催の変遷

50回の間には、名称や、主催機関、研修の期間等、様々な変遷がありました。

開催年度	主催・共催機関	開催期間	会場
1969（昭和44）	文部省と図書館短期大学との共催	3週間	図書館短期大学（以下、図短）ほか
1970（昭和45）		4週間	
1971（昭和46）			図短、国立赤城青年の家ほか
1972（昭和47）			図短、国立中央青年の家ほか
1973（昭和48）			図短ほか
1977（昭和52）			図短、国立中央青年の家ほか
1978（昭和53）			図短、国立赤城青年の家ほか
1979（昭和54）	文部省と東京大学との共催		
1980（昭和55）	文部省と東京学芸大学との共催	3週間	東京学芸大学ほか
1981（昭和56）			図書館情報大学（以下、図情大）、筑波大学（以下、筑大）ほか
1984（昭和59）			図情大、筑大、東京大学、東京工業大学ほか *2週目は東京
1986（昭和61）			図情大、筑大、学術情報センターほか *2週目は東京
1995（平成7）	文部省(H13-文部科学省)と図書館情報大学との共催		図情大、国立オリンピック記念青少年総合センター（以下、オリセン）ほか *前半東京、後半つくば
1996（平成8）			図情大、オリセンほか *1週目つくば、2-3週目東京
2001（平成13）			図情大、オリセン、東京大学、国立情報学研究所ほか *1,3週目東京、2週目つくば
2002（平成14）		図情大、オリセンほか *1-2週目東京、3週目つくば	
2003（平成15）	筑波大学と文部科学省との共催		筑大、オリセンほか *1-2週目東京、3週目つくば
2004（平成16）	筑波大学主催、文部科学省共催		オリセン
2006（平成18）	筑波大学主催	2週間	筑大
2018（平成30）			

当初は「大学図書館専門職員長期研修」として開始され、1971（昭和46）年度に現在の名称となりました。

1972(昭和47)年度に、公立大学および私立大学の図書館職員も受講対象となりました。

ある年の 研修日程

第1回と、第24回の研修日程を紹介します。

昭和44年度大学図書館専門職員 長期研修日程（予定）

時間 曜日	9:00~10:40	10:40~12:20	13:00~14:40	14:40~16:20
8/1 金	受付(9:00~9:30) 開会、オリエンテーション(10:00~)	(1) 近代的大学図書館専門職員のあり方(太田 和彦)	(2) 大学図書館管理運営論(岩瀬 敏生)	
2 土	(2) 大学図書館管理運営論(岩瀬 敏生)		(4) 大学図書館業務の合理化・標準化について(岡崎 義富)	
3 日				
4 月	(4) 大学図書館業務の合理化・標準化について(岡崎 義富)		(4) 大学図書館業務の合理化・標準化について(岡崎 義富)	
5 火	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (1) 目録法(木寺 清一)		(4) 大学図書館業務の合理化・標準化について(岡崎 義富)	
6 水	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 分類法(服部金太郎)		(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (1) 目録法(木寺 清一)	
7 木	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 分類法(服部金太郎)		(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (1) 目録法(木寺 清一)	
8 金	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (1) MARCについて(田辺 広)		(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 分類法(服部金太郎)	
9 土	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 件名・索引法とMEDLARSについて(松村多美子)		(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 件名・索引法とMEDLARSについて(松村多美子)	
10 日				
11 月	(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 件名・索引法とMEDLARSについて(松村多美子)		(4) 機械化・標準化のための目録・分類・索引作業 (2) 件名・索引法とMEDLARSについて(松村多美子)	
12 火		(3) 大学図書館建築論(10:00~)(小林 秀弥)	(5) 大学図書館建築論(小林 秀弥)~15:30	

時間 曜日	9:00~10:40	10:40~12:20	13:00~14:40	14:40~16:20
8/13 水	(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)		(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)	
14 木	(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)		(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)	
15 金		アジア経済研究所見学		日本科学技術情報センター
16 土	(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)		(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)	
17 日				
18 月	(5) 大学図書館業務の機械化について(桜井 宜隆)			
19 火	(5) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)		(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉、鈴木、住谷、庄野、馬場、竹内、津田)	
20 水	(7) 参考調査(長沢 雅男)			(9) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(鈴木重三、庄野新、津田良成)
21 木	(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)		(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)	
22 金	(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)		(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)	
23 土	(8) 参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について(朝倉治彦、鈴木重三、住谷雄幸、庄野新、馬場重徳、竹内寿、津田良成)		(9) 国家公務員研修(14:00~)	

「昭和44年度大学図書館専門職員長期研修講義要綱I」より

当時は、研修定員を分野ごとに分けて受講者を募集し、「参考図書(レファレンス・ツールズ)の構成と利用について」では、それぞれの分野の担当講師による講義がおこなわれていました。

- a 人文・社会系分野を主たる奉仕対象とする図書館職員 10名
- b 理工系(数理系、化学系等)の分野を主たる奉仕対象とする図書館職員 10名
- c 生物系(医学、薬学、農学系等)の分野を主たる奉仕対象とする図書館職員 10名

平成4年度大学図書館職員長期研修日程及び研修会場

区 分	午 前		午 後	
	9:00~10:30		13:30~15:00	15:15~16:45
7/13 月	9:00 ~ 受付 9:30 ~ 開講式 (205)	大学図書館の在り方 竹内 忍 (205)	大学図書館行政 柴山 盛生 (205)	共 同 討 議 (205)
14 火	新しい大学図書館の在り方 石井 啓 豊 (205)	著作権に係わる問題について 田口 重 意 (205)	学内LANと大学図書館 橋爪 宏 達 (205)	Gray Literature の収集活動 山 田 隼 (205)
15 水	大学図書館と情報資源マネジメント 野添 篤 毅 (205)		文化財保存施設の防災対策 小川 雄二 郎 (205)	
16 木	保存図書館について 松 浦 正 (205)	大学図書館の現状と課題 浅野 次 郎 (205)	日本の研究者と大学図書館 カール・ベッカー (205)	
17 金	図書館の管理運営 高 柳 勇 (205)	国際標準化機構(ISO/TC46)の動向 内藤 衛 亮 (205)	職場における健康管理 本村 幸 子 (205)	体 育 (図情大体育館)
18 土				
19 日				
20 月	学術情報センターの役割 猪瀬 博 井上 如 (学術情報センター)	情報検索の理論と技法 根岸 正 光 (学術情報センター)	目録・所在情報サービス (NACSIS-CAT)の現状 酒井 清 彦 (学術情報センター)	学術情報センターにおける データベースの形成と利用 大西 直 樹 (学術情報センター)
21 火	情 報 検 索 の 実 際 根岸 正 光 (学術情報センター)		学術雑誌総合目録データベース 渡辺 俊 彦 (学術情報センター)	ILLシステムの実際・電子メール 甲斐 重 武 (学術情報センター)

22	水	CD-ROM及び光ファイリング利用の実際 (見学) 門 田 泰 典 (東京工業大学)	国文学研究支援のための情報システム (見学) 安 永 尚 志 (国文学研究資料館)	
23	木	大学図書館の相互協力 (見学) 小 川 治 之 (慶應義塾大学)	見 学 (国立国会図書館)	
24	金	大学図書館における情報システムの実際 小 花 洋 一 (東京大学附属図書館)	見 学 (早稲田大学総合学術情報センター)	
25	土			
26	日			
27	月	わかりやすい表現のための7つのポイント 海 保 博 之 (205)	外国雑誌センター館の活動 黒 澤 節 男 (205)	グ ル ー プ 討 議 1
28	火	レファレンスサービスの理論と技法 寺 田 光 孝 (筑波大学附属図書館)	見 学 (筑波大学附属図書館)	レファレンスサービスの実際 高 橋 清 夫 (筑波大学附属図書館)
29	水	レファレンスサービスの実際 高 橋 清 夫 (筑波大学附属図書館)	事務効率化の考え方と方法 天 野 恒 男 (205)	外国出版物価格問題 鈴 木 英 夫 (205)
30	木	大学図書館の建築と設備 植 松 貞 夫 (205)	在 外 研 究 員 報 告 牧 村 正 史 (205)	グ ル ー プ 討 議 2
31	金	図書館システムの高度化 石 川 徹 也 (205)	グループ討議報告	閉 講 式

「平成4年度大学図書館職員長期研修講義要綱」より

懇親を深めるためか、1985 (昭和60) 年度 ~ 1992 (平成4) 年度の日程には「体育」が含まれています。

1986 (昭和61) 年4月に学術情報センター設置、1992年(平成4) 年4月にILLシステム運用開始。この年には「ILLシステムの実際・電子メール」の講義もありました。

受講者数

各年の受講生は、29～45人。50回の間に、国立、公立、私立の機関を合わせ、1,870人が受講しました。

回	開催年度	国立機関	公立機関	私立機関	計
1	1969 (昭和44)	29	0	0	29
2	1970 (昭和45)	31	0	0	31
3	1971 (昭和46)	33	0	0	33
4	1972 (昭和47)	33	1	3	37
5	1973 (昭和48)	30	1	3	34
6	1974 (昭和49)	30	1	2	33
7	1975 (昭和50)	35	0	3	38
8	1976 (昭和51)	31	1	5	37
9	1977 (昭和52)	32	1	5	38
10	1978 (昭和53)	33	1	5	39
11	1979 (昭和54)	32	0	5	37
12	1980 (昭和55)	30	1	5	36
13	1981 (昭和56)	34	1	5	40
14	1982 (昭和57)	35	1	4	40
15	1983 (昭和58)	33	1	4	38
16	1984 (昭和59)	33	1	4	38
17	1985 (昭和60)	33	1	3	37
18	1986 (昭和61)	33	1	3	37
19	1987 (昭和62)	36	1	7	44
20	1988 (昭和63)	32	1	4	37
21	1989 (平成元)	34	2	5	41
22	1990 (平成2)	33	1	4	38
23	1991 (平成3)	37	1	4	42
24	1992 (平成4)	35	1	6	42
25	1993 (平成5)	35	1	6	42
26	1994 (平成6)	38	1	6	45
27	1995 (平成7)	33	1	7	41
28	1996 (平成8)	35	1	6	42
29	1997 (平成9)	35	1	6	42
30	1998 (平成10)	35	0	7	42
31	1999 (平成11)	32	1	6	39
32	2000 (平成12)	34	1	3	38
33	2001 (平成13)	30	1	2	33
34	2002 (平成14)	33	2	2	37
35	2003 (平成15)	34	1	5	40
36	2004 (平成16)	35	1	6	42
37	2005 (平成17)	30	2	7	39
38	2006 (平成18)	28	2	5	35
39	2007 (平成19)	28	2	6	36
40	2008 (平成20)	30	1	4	35
41	2009 (平成21)	31	1	3	35
42	2010 (平成22)	31	1	4	36
43	2011 (平成23)	32	1	3	36
44	2012 (平成24)	29	1	6	36
45	2013 (平成25)	30	1	4	35
46	2014 (平成26)	26	1	9	36
47	2015 (平成27)	30	1	5	36
48	2016 (平成28)	31	0	4	35
49	2017 (平成29)	27	0	3	30
50	2018 (平成30)	25	1	5	31
	合計	1,604	47	219	1,870

*1969 (昭和44) ～ 1978 (昭和53) 年度の受講者数は「図書館短期大学史：十七年の歩み：閉学記念特集」(1981.3) より

*1979 (昭和54) ～ 2005 (平成17) 年度の受講者数は各年の「講義要綱」より

*放送大学学園からの受講者数は私立に含めた

2018年7月2日発行
〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学 学術情報部 情報企画課 (企画渉外)